

VA公用文シリーズ（統合版）
操作マニュアル

発行日：2026年6月23日

発行：VBAアセット

目次

1. はじめに.....	2
2. インストールの確認.....	2
3. VA公用文の使い方.....	3
4. VA疑似アウトライン.....	5
5. VAスタイル.....	7
6. VA内容証明郵便.....	8
7. VAセキュリティ.....	9
8. VAクリップ.....	10
9. VAコード.....	13
10. アンインストール.....	15
11. トラブルシューティング.....	15
12. 開発者からのお願い.....	15
13. 使用許諾・免責事項.....	16

1. はじめに

「VA公用文シリーズ（統合版）」は、裁判所提出書類や公用文の作成を支援するMicrosoft Word用アドインの統合パッケージです。

面倒な書式設定、インデント調整、スタイル管理、セキュリティチェックなどを自動化し、法律実務や公的文書作成の効率を飛躍的に向上させます。

2. インストールの確認

本製品をインストールすると、Wordのリボンに「VA」という名前のタブが追加され、ボタンが配置されます。また、Windowsの場合はクイックアクセスツールバー（画面左上のアイコン群）にも、一部の機能呼び出すためのアイコンが追加されます。



リボンに追加されるボタン



クイックアクセスツールバーに追加されるアイコン

※ Word起動時にセキュリティの警告が表示された場合は、「コンテンツの有効化」をクリックしてください。

3. VA公用文

～裁判所提出書類などの公用文書式を自動設定～

3.1. 機能

-裁判所提出用書類や一般公用文に合わせたページ設定（右余白の自動調整など）を行います。

-マークダウン記法（#などの記号）を使った見出し作成と、Wordアウトライン機能の相互変換を行います。

-インデントの自動設定（「第1」や「1」などのレベルに合わせて文字の開始位置を調整）を行います。

-最初の見出し段落まで、および見出し段落後の右揃え段落以降は、変換等の処理の対象外となっています。

-「行間詰め」スタイルの段落は、変換等の処理の対象外となっています。

3.2. 使い方

3.2.1. 「セットアップ」

-リボン-VA-VA公用文の「セットアップ」ボタンをクリックすると書式設定画面が開きます。

-文書の種類などを選択して「OK」を押すと、ページ設定やスタイルが適用されます。



VA公用文

文書の種類

- 裁判所提出書類
- 内容証明郵便
- 一般公用文
- 契約書1(法令型)
- 契約書2(実務型)
- ビジネス文書
- 技術文書

ページ番号

- 右上(最終ページに〃)
- 中下(番号のみ)
- 中下(装飾付)
- 右下(総ページ数付)
- なし

行番号を表示する

サンプルを追加する

OK キャンセル

-タブ設定の既定値は1文字に変更されます。（「Tab」、「Shift+Tab」、「Ctrl+M」、「Ctrl+Shift+M」の各キーでインデントを手動で変更できます。）

-スタイルギャラリーから公用文作成に使用しないものは削除されます

-リストギャラリーから規定の記号以外は削除されます。

3.2.2. 「マークダウン」

-現在のアウトラインをマークダウン記法（テキスト）に変換します。

-インデントは解除されます。



VA公用文

3.2.3. 「アウトライン」

-マークダウン記法をWordの正式なアウトライン（スタイル）に変換し、インデントを整えます。

-セクション区切りがある場合は、見出し番号の振り直しも行われます。

3.2.4. 「ニュートラル」

-インデントが解除されたアウトライン（スタイル）に変換します。

3.2.5. 共通の処理

-インデントの調整や、アウトラインおよびマークダウンの変換処理が行われるのは、「見出し」、「標準」および「リスト段落」スタイルだけです。これ以外のスタイル（「行間詰め」など）が適用された段落は、処理の対象外です。

-表内の段落には、インデント設定・解除時に「行間詰め」スタイルが自動的に適用されます。

-範囲を選択した状態で「ニュートラル」ボタンをクリックすると、その範囲のインデントと配置を維持したまま、「行間詰め」スタイルを適用できます。

-最初の見出しまでは処理の対象外になっています。頭書の部分の書式は「標準」スタイルのままでも自動修正が行われません。

-最初の見出し以降で配置が「右揃え」の段落以降は処理の対象外になっています。

-「行間詰め」スタイル以外の段落の行頭の空白は、インデントに変換されます。

-見出し番号や箇条書き、段落番号が正常に表示されない場合は、一旦マークダウンに変換するか、セットアップを再度実行してください。

細部仕様については、「VA公用文」のウェブページをご参照ください。

<https://vba-assets.net/official-documents-template/>

4. VA疑似アウトライン

～「複合見出し」や手入力番号の構造化～

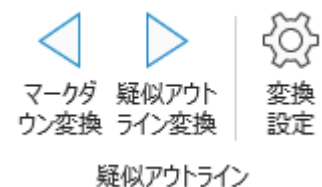
4.1. 機能

- 手入力された番号（「第1」「1」など）を解析して、アウトラインやスタイルが適用されていない「疑似アウトライン」をマークダウンに変換します。
- 反対にマークダウンを「疑似アウトライン」に変換できます。
- 「1(1) ○○は…」のように、同じ行に複数の見出しレベルが存在する「複合見出し」に対応。
- 他者が作成した「スタイルが適用されていない文書」を修正する際に役立ちます。
- 「行間詰め」スタイルの段落を対象外とするかどうかを設定できます。
- 見出し番号を全角1文字分の幅に調節するかどうかを設定できます。

4.2. 使い方

4.2.1. 「マークダウン変換」

- 手入力の番号体系を自動判別し、適切な階層構造（マークダウン）へ変換します。
- 変換されたマークダウンは、「VA公用文」ツールを使って正式なアウトラインに変換可能です。



4.2.2. 「疑似アウトライン変換」

- 手入力の番号体系（疑似アウトライン）へ変換します。「複合見出し」も設定します。
- 括弧付きの文字列を選択した状態でクリックすると、全角1文字分の文字幅になるように縮小されます。縮小された文字列を選択した状態でクリックすると、縮小が解除されます。

4.2.3. 「変換設定」

-変換時のオプションを選択できます。



細部仕様については、「VA疑似アウトライン」のウェブページをご参照ください。
<https://vba-assets.net/heading-conversion/>

5. VAスタイル

～表題と見出しのスタイルを順次に変更～

5.1. 機能

-見出しや表題のフォント（明朝・ゴシック）や段落設定（「次の段落と分離しない」など）をワンクリックで切り替えます。

-通常の「太字（Ctrl+B）」では文字送りが崩れる問題を回避し、適切な「ゴシック体」スタイルを適用します。

5.2. 使い方

5.2.1. スタイル変更

-クリックするたびに、表題 → 見出し1 → 見出し2… と対象が順次切り替わり、スタイルが適用されます。

5.2.2. スタイル復元

-クリックするたびに、逆方向に変更（復元）できます。

-範囲を選択してからクリックすると、フォントに傍点が追加されます。もう一度クリックするともとに戻ります。

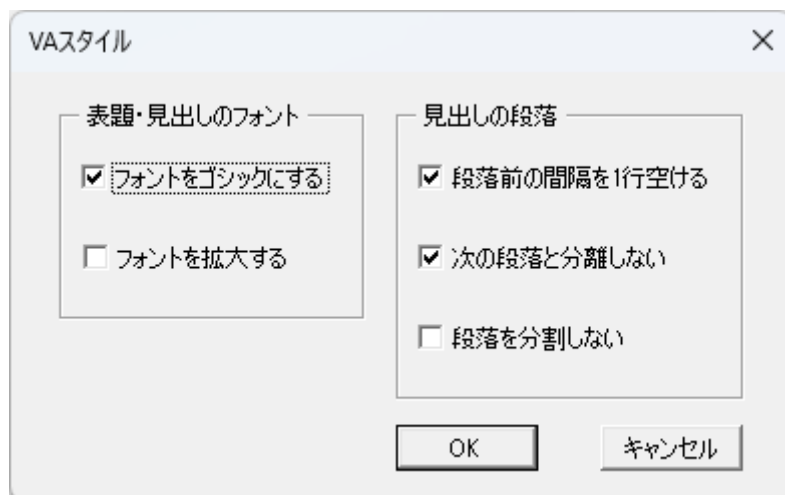
5.2.3. スタイル設定

-変更時に適用するスタイルを設定できます。

-範囲を選択してからクリックすると、フォントがゴシック体に変更されます。もう一度クリックするともとに戻ります。



VAスタイル



5.3. 細部仕様

<https://vba-assets.net/configy-style/>

6. VA内容証明郵便

～内容証明郵便の字数等をチェック～

6.1. 機能

- 日本郵便が定める「内容証明郵便」の規定（1行20字以内、1枚26行以内など）に適合しているかチェックします。
- 半角文字の使用などによる意図しない字数オーバーを検出します。

6.2. 使い方

- 文書作成後、リボン-VA-VA内容証明郵便の「文字・行数チェック」をクリックします。
- 規定を超えている行がある場合、その行が選択された状態で停止し、警告を表示します。
- 問題がなければ「チェック完了」のメッセージが表示されます。



VA内容証明郵便

6.3. 郵便局が定めている制限

https://www.post.japanpost.jp/service/fuka_service/syomei/use.html

このマクロは、次の部分については、郵便局の制限をチェックできません。（実用上は、問題ないはずです。）

- アウトラインを用いない見出し番号には対応していません。アウトラインを使用していない場合は、見出し番号が2字以上になると、そのままの字数でカウントします。
- タブによる空白には対応していません。タブによってできた空白は、文字数にカウントします。
- 「）」側だけを使用した括弧には対応していません。「）」側だけの場合は、字数にカウントされません。
- ラインフィード（シフトキーとリターンキーの同時押し）には対応していません。ラインフィードは無視して、改行していないものとして字数をカウントします。キャリッジリターン（リターンキーのみ）を使用してください。

6.4. 細部仕様については、「VA内容証明郵便」のウェブページをご参照ください。

<https://vba-assets.net/content-certified-mail/>

7. VAセキュリティ

～変更履歴やコメントを完全削除～

7.1. 機能

- 文書内に残っている「変更履歴」「コメント」「蛍光ペン」「個人情報（作成者名など）」を一括で削除します。
- 外部（相手方や裁判所）へWordファイルを提出する前の「クリーニング」として使用します。

7.2. 使い方

注意：この操作は元に戻せません。必ず保存してから実行してください。

- 提出前の最終稿を開きます。
- リボン-VA-VAセキュリティの「情報削除」をクリックします。
- 確認メッセージで「はい」を選択すると、全てのメタデータと注釈が削除されます。



VAセキュリティ

7.3. 削除される情報

- すべての変更履歴（リビジョンマーク）
- 文書のバージョン情報
- 作成者や最終更新者などの個人情報
- Wordから直接電子メールとして送信された場合に付加されるヘッダー情報
- 回覧用紙情報
- 校閲のために文書を送信した際に保存される情報
- 「ファイルのプロパティ」ダイアログボックスに表示される、組み込みおよびカスタムのすべての文書プロパティ
- 添付されているテンプレートの情報
- ドキュメントワークスペースの情報
- インク注釈（手書きのコメントやマーク）
- SharePointサイトなどのドキュメントサーバーに保存されているプロパティ
- 文書管理ポリシー情報
- コンテンツタイプ情報
- 作業ウィンドウのWeb拡張機能に関する情報
- すべての蛍光ペン

7.4. 細部仕様については、「VAセキュリティ」のウェブページをご参照ください。

<https://vba-assets.net/sanitize-document-completely/>

8. VAクリップ

～VBA開発者向けツール～

8.1. 機能

-WordまたはExcelのVBAプロジェクトに含まれるすべてのVBAモジュール（標準モジュール、クラス、フォーム）のコードを一括でJSON形式でクリップボードに書き出します（エクスポート）。

-逆に、クリップボードのコードを一括で取り込む（インポート）ことも可能です。

-GeminiなどのAIを使ってVBAプロジェクトを開発・改良する際に最適です。

8.2. 使い方

8.2.1. セキュリティ設定の変更

このマクロは、VBAプロジェクトの構造自体にアクセスしてコードを読み取るため、実行前にExcel/Word側でセキュリティ設定を許可する必要があります。

-「ファイル」 > 「オプション」 > [トラスト センター] を開きます。

-「トラスト センターの設定」 ボタンを押します。

-「マクロの設定」 を選択します。

-「VBAプロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する」にチェックを入れます。

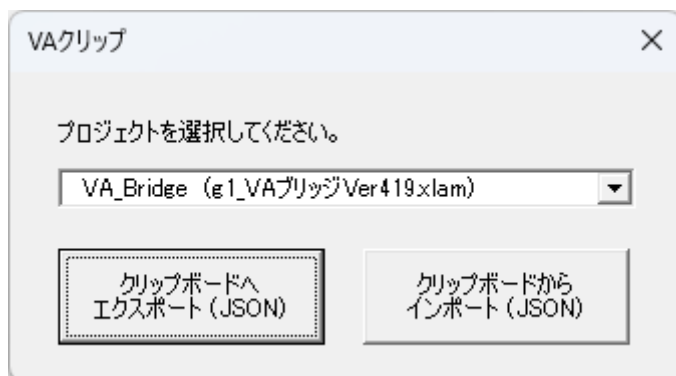
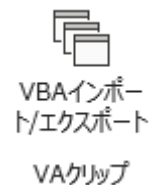
この設定がOFFになっていると、マクロはエラーで停止します。

8.2.2. 起動

-VBAコードをエクスポートしたいWordまたはExcelファイルを開きます。

-リボン-VA-VBAクリップの「VBAエクスポート/インポート」ボタンをクリックします。

-メニューが表示されますので、対象となるプロジェクトを選択してから、「クリップボードへエクスポート」または「クリップボードからインポート」をクリックしてください。



-VBEからbasMainモジュールのMainプロシージャを直接実行することもできます。

8.2.3. モジュールのエクスポート

-プロジェクトの各モジュールのコードがJSON形式でクリップボードに保存されます。

8.2.4. モジュールのインポート

-クリップボードのコードがプロジェクトにインポート（上書き）されます。

-【注意】 ファイルの保存操作を行わないとファイルには書き込まれません。

8.3. 生成AIのプロンプト

インポートするするためのJSONを生成するためには、次のプロンプトを生成AIの「カスタム指示」などに貼り付けてください。

Output Format (JSON Structure)

回答は、以下のJSONスキーマに従ったJSONコードブロックのみを出力せよ。

解説や挨拶文は一切不要である。

```
[
  {
    "name": "モジュール名 (文字列)",
    "type": "モジュール種別 (文字列)",
    "code": "VBAコード全体 (文字列)"
  }
]
```

Critical Rules (絶対厳守)

出力対象の限定 (トークン節約)

新規作成または内容を修正したモジュールのみをJSON配列に含めること。

変更のないモジュールは絶対に出力しないこと。

モジュール種別 (type)

type フィールドには以下のいずれかの文字列を正確に指定せよ。

Standard: 標準モジュール (Module1, basMain 等)

Class: クラスモジュール

Form: ユーザーフォーム (コード部分のみ)

Document: ドキュメントモジュール (ThisWorkbook, ThisDocument, Sheet1, Slide1 等)

JSONエスケープ処理 (最重要)

code フィールドは1つの長い文字列である。VBAコードをJSON文字列内に格納するため、以下のエスケープを必ず実行せよ。

改行: 全ての改行 (CRLF) を `\n` に置換せよ。

ダブルクォーテーション: コード内の `"` は全て `\"` に置換せよ。

例: `MsgBox "Hello"` → `"code": "MsgBox \"Hello\""`

日本語: Unicodeエスケープせず、そのままUTF-8文字として含めよ。

既存モジュールの扱い

ホストアプリケーション固有のオブジェクト (ThisWorkbook, ThisDocument, Sheet1, Slide1 等) のコードを修正する場合、type は必ず Document とし、name は既存のオブジェクト名と完全に一致させよ。

既存のコードを修正する場合は、既存のロジックを破壊しないよう注意せよ。

文字列リテラルの保護 (改変禁止)

ユーザーから明示的な変更指示がない限り、コード内の文字列リテラル (シート名、セル番地、ブックマーク名、スライド名、テーブルのフィールド名、ファイルパス、SQL文など) を一切変更してはならない。

これは各アプリケーションのオブジェクト構造や外部データ連携の整合性を保つために不可欠である。

Example Output

```
[
  {
    "name": "basSample",
    "type": "Standard",
    "code": "'更新日時: 2026/02/11 10:00¥n' 概要: サンプルモジュール¥nOption Explicit¥n¥n'-----¥n' 概要 : ユーザーに挨拶を表示する¥n'-----¥nSub ShowMessage()¥n    'メッセージボックスを表示¥n    MsgBox ¥"Hello World!¥"¥nEnd Sub"
  }
]
```

8.4. 細部仕様

<https://vba-assets.net/export-vba-code-to-a-single-file/>

9. VAコード

～ファイルベースのVBAコード管理ツール～

9.1. 機能

WordまたはExcelのVBAプロジェクトに含まれるモジュールのコードを、テキストファイルとして書き出します（エクスポート）。また、保存したファイルからモジュールを取り込む（インポート）ことができます。

VAクリップがクリップボードを介してコードを入出力するのに対し、VAコードはファイルシステムを介して管理します。Claude Codeなど、ファイルを直接読み書きするAIツールとの連携に特に適しています。

9.2. セキュリティ設定の変更

このマクロは、VBAプロジェクトの構造自体にアクセスしてコードを読み取るため、実行前にWord/Excel側でセキュリティ設定を許可する必要があります。

- 「ファイル」 > 「オプション」 > [トラスト センター] を開きます。
- 「トラスト センターの設定」 ボタンを押します。
- 「マクロの設定」 を選択します。
- 「VBAプロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する」 にチェックを入れます。

この設定がOFFになっていると、マクロはエラーで停止します。

9.3. 使い方

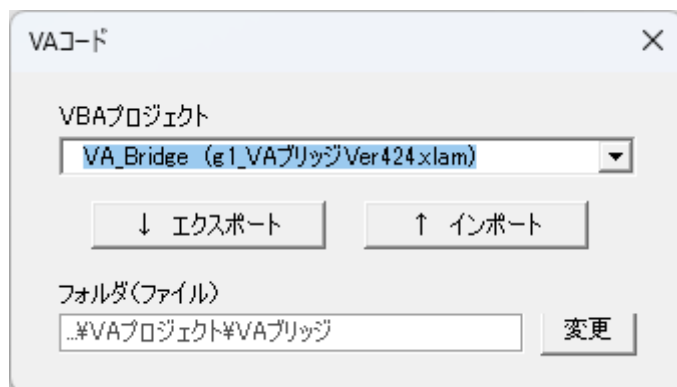
9.3.1. 起動

-VBAコードを操作したいWordまたはExcelファイルを開きます。

-リボン-VA-VAコードの「VBAエクスポート／インポート」 ボタンをクリックします。

（VAコードのフォームが起動します。）

-対象のプロジェクトをコンボボックスから選択してください。選択したプロジェクトに対応するフォルダパスが表示されます。フォルダを変更したい場合は「変更」 ボタンをクリックします。



9.3.2. モジュールのエクスポート

- 「エクスポート →」 ボタンをクリックします。
- フォルダパスが未設定の場合は、保存先フォルダの選択ダイアログが表示されます。
- 確認ダイアログで「OK」をクリックすると、各モジュールがテキストファイルに書き出され、モジュール構成を記録したmanifest.jsonが生成されます。出力されるファイルの形式は以下のとおりです。
- 標準モジュール (Standard) : モジュール名.bas
- クラスモジュール (Class) : クラス名.cls
- ユーザーフォーム (Form、コード部分のみ) : フォーム名.frm
- ドキュメントモジュール (Document) : モジュール名.bas
- manifest.json: モジュール名・種別・ファイル名の対応表

9.3.3. モジュールのインポート

- 「← インポート」 ボタンをクリックします。
- インポート元フォルダにmanifest.jsonが存在する必要があります。
- インポートするモジュールの一覧が確認ダイアログに表示されます。「OK」をクリックすると、モジュールが対象プロジェクトに取り込まれます。

【注意事項】

- VAコード自身 (アドインファイル) へのインポートはできません。別のプロジェクトを選択してください。
- 既存の同名モジュールは上書きされます。ユーザーフォームの場合はコードのみが更新され、フォームのレイアウトは変更されません。
- インポート後は必ずファイルを手動で保存してください。インポート操作だけではファイルには書き込まれません。

9.4. 新規開発の手順

既存のVBAコードがない状態から新規にプログラムを開発する場合は、以下の手順で行います。

- 新規WordまたはExcelファイルを作成し、適当な場所に保存します。
- VBEを開き (Alt+F11)、必要なモジュールを挿入します (「挿入」メニュー → 「標準モジュール」 「クラスモジュール」 「ユーザーフォーム」 など)。コードは空のまま構いません。
- VAコードでそのファイルをエクスポートします。各モジュールのコードファイルとmanifest.jsonが出力フォルダに生成されます。
- テキストエディタやAIを使ってコードファイルを編集します。
- VAコードでインポートして動作を確認します。
- 手順4~5を繰り返してプログラムを完成させます。

10. アンインストール

本ソフトウェアが不要になった場合は、以下の手順で削除してください。Wordファイル自体は消えません。

すべてのWordファイルを閉じ、Wordを終了します。

Windowsの「スタートボタン」をクリックし、「設定（歯車アイコン）」を開きます。

「アプリ」（または「アプリと機能」）をクリックします。

アプリの一覧から「VA公用文シリーズ（統合版）」を探してクリックします。

「アンインストール」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。

11. トラブルシューティング

Q. ボタンを押しても反応しない、またはセキュリティ警告が出る。

A. 本インストーラーを使用した場合は自動的にブロック解除されていますが、Wordのセキュリティ設定によってはマクロが無効化されることがあります。「トラストセンター」の設定を確認してください。

Q. アンインストールしたい。

A. Windowsの「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」から「VA公用文シリーズ（統合版）」を選択し、アンインストールしてください。

12. 開発者からのお願い

不具合報告やご要望につきましては、以下のURLのコメント欄等にてお待ちしております。

公式サイト（コメント欄）

<https://vba-assets.net/va-official-document-series-integrated-edition/#comments>

13. 使用許諾・免責事項

13.1. 使用許諾・禁止事項

13.1.1. 営利目的の販売・再配布の禁止 本ソフトウェア（インストーラーおよび含まれるすべてのアドインファイル）を、開発者の許可なく第三者へ有償で販売、貸与することを固く禁じます。

13.1.2. インターネット上での再配布禁止 本ソフトウェアを、不特定多数がアクセス可能なインターネット上のサーバーやアップローダー等に公開し、再配布することを禁じます。

13.1.3. 組織内共有および業務利用 本ソフトウェアは、個人の利用に限らず、企業や団体などの組織内業務で利用可能です。また、組織内での共有や知人への譲渡は問題ありませんが、その際は必ず本マニュアルを添付し、本ソフトウェアが無料であることを伝えてください。

13.1.4. 改変版の配布禁止 本ソフトウェアの一部または全部を改変し、それを「VA公用文シリーズ」または類似の名称を用いて配布することを禁じます。

13.2. 免責事項

13.2.1. 本ソフトウェアは、現状有姿（As-Is）で提供されます。開発者は、本ソフトウェアの動作、特定目的への適合性、およびバグがないことを保証しません。

13.2.2. 本ソフトウェアの使用によって生じた、いかなる損害（データの消失、業務の中断、利益の損失などを含むがこれらに限定されない）についても、開発者は一切の責任を負いません。ご自身の責任においてご利用ください。

13.2.3. 本ソフトウェアの仕様は、予告なく変更される場合があります。

著作権・サポート

Copyright (C) 2020-2026 VBA Assets

<https://vba-assets.net/>